



長野県難聴児支援センター

ニュースレター

平成28年
第4号



長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

夜になると、外からいろいろな「虫のこえ」が聞こえます。「チンチロチンチロ」「リンリンリン」「あ～秋だなあ」と涼しく感じるこの虫たちの鳴き声ですが、どうやら「いいなあ」と聞いているのは日本人だけ！？という話を聞いた事があります。他の国の人にはどうやら「雑音」としか聞こえないとか。(動物の鳴き声も国によって表現が違いますね「バウワウ」とか)。きこえて不思議です。

♪あれ松虫がなきだした～ ♪秋の夜長を鳴き通す ♪あ～おもしろい虫のこえ

「虫のこえ」「カエルの合唱」…子どもに歌った経験が、音と心を育てるのかもしれないね。



10月「ファミリーセミナー」開催

10月1日(土)ファミリーセミナーを開催しました。この日は、難聴児支援センターセンター長の宇佐美教授より「耳のしくみと音の伝わり方」「遺伝子診断からわかること」「治療の実際」等、分かりやすく、具体的な事例や映像も交えてお話いただきました。

印象深いお話として

「子どものきこえを学ぶことは、
子どもへの話しかけを知ること」
「病院で『きこえ』を治療するが、
ことばを獲得させるのは親である」



宇佐美教授と言語聴覚士のみなさん

このことばは、参加者全員の胸に響きました。ファミリーセミナーとして、こうして休日に集まる大きな意味がここに 있습니다。日々語りかけ、ことばのタネをまき、育てるのは「家庭」です。

育てるための栄養やコツ、エネルギーはドクターや言語聴覚士、療育支援員や各専門機関の職員がお手伝いします。しかし、毎日かわるのはやはり「家庭」なのです。家庭でかわされるやりとり、コミュニケーションが「人と人」を結び付け、「心とことば」を育みます。

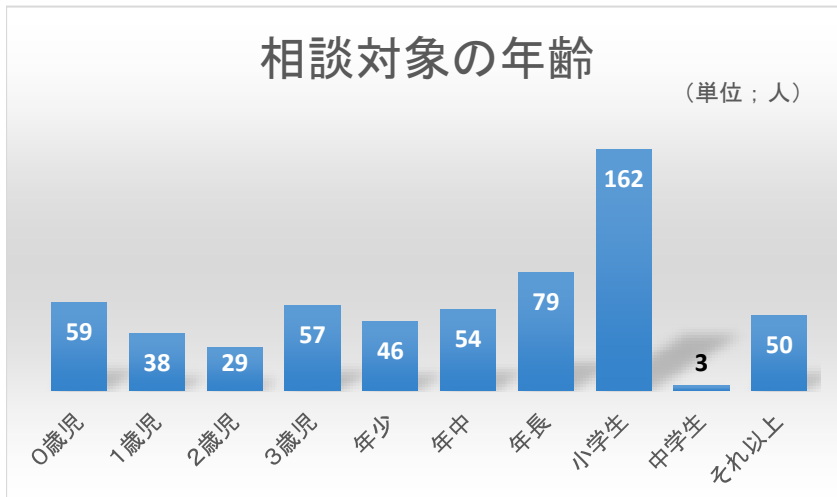
今回のセミナーを通して、「聴力測定の違い」「オーディオグラムの見方」など専門的な事柄も、メモを取り真剣に学ぶお父さんお母さんの姿が、とても頼もしく思いました。ありがとうございました。

※次回は11月12日(土) 詳しくは裏面をご覧ください。



「センター活動実績よい」 4月～9月(前期)

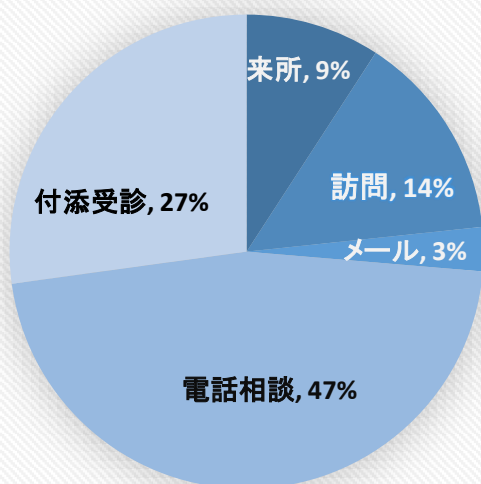
4月からここまでの「活動実績」をまとめました。多くの方に難聴児支援センターをご利用いただき、人のつながり、応援の輪が広がるのがとても嬉しいです。前期の相談を振り返り、今後の支援につなげていけたらと思います。



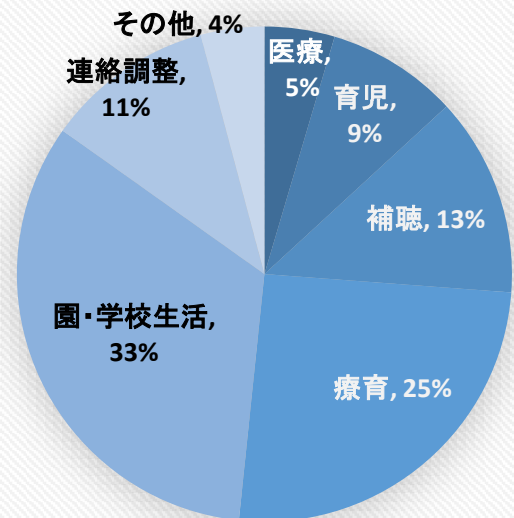
相談いただいたお子さんの延べ人数は577人です。新生児聴覚スクリーニング検査に伴う「0歳児」さん、就園を控えた「3歳児」さん、そして就学に向う「年長さん」の相談が多い傾向です。子どもの成長を喜びながら節目ごとに、子どものさらなる成長を願う保護者の方々のお気持ちが表れています。

(※「それ以上」は、高校や大学、社会人となり、新しい一歩を踏み出した方からの近況報告等です)

相談方法

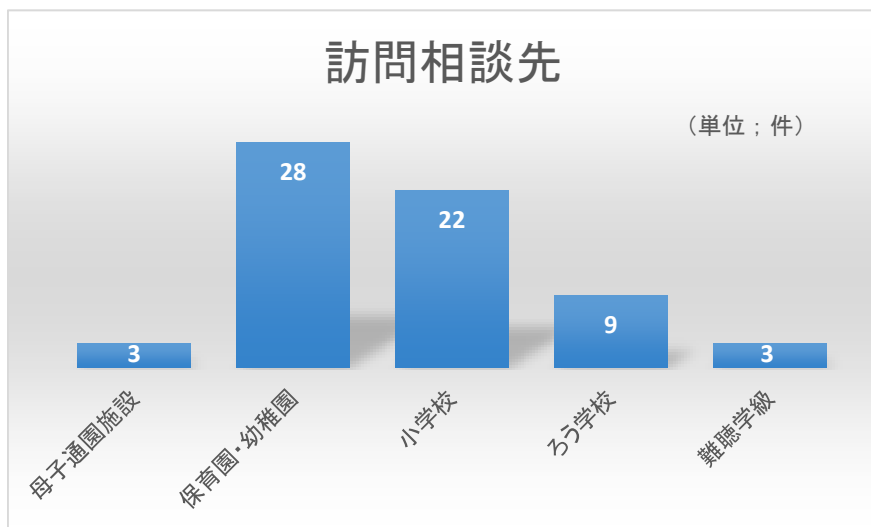


相談内容



相談方法は、「付添受診」でのつながりをもとに電話で相談し、訪問や来所へと支援が続いています。相談内容は、「集団活動の場での様子」や「ことばの発達」に関する相談が多く、「きこえ」や「育児」についても一緒に考えています。

訪問相談先



子どもが実際に活動している現場を見学させていただくことは、きこえやことばの実態をつかみ、そこに携わる多くの関係者と情報共有ができる貴重な機会となっています。

保護者の方からの依頼を受けて、訪問させていただいております。改めて思うのが「世間は多くの音や声(情報)が飛び交っているなあ」ということです。

多くの音やことばを捕まえ、理解することは、きこえにくい子には大変労力のいることです。その繰り返しの中で、聞き流したり、目で見て判断したりする場面も少なくありません。

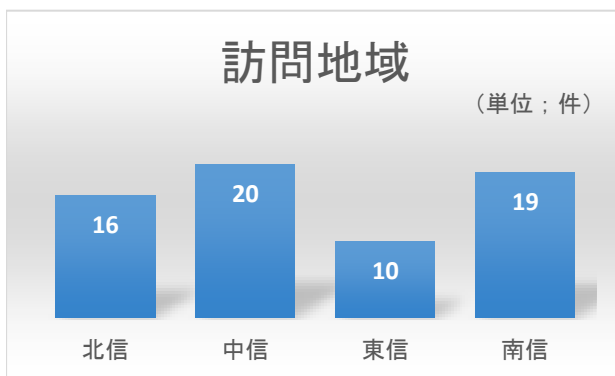
聞こえにくい子が「ききやすい環境」は、きっとどの子にとっても「わかりやすい環境」である、と思います。先生が話すときに注目したり、友だちの話しを最後まで聞いたり、椅子や扉の騒音を減らしたり…。そんな「ききやすい環境」を心がけている園や学校も多くみられ、嬉しく訪問させていただいています。

訪問相談させていただいている地域は、県内すべての地域でニーズがあり、多くの方々と連携をとらせていただいています。

また難聴児支援センターにお越しいただいたの「来所相談」も52件ありました。信大病院を受診の折に、親子相談室等を利用しながらお話しさせていただけるのも嬉しいつながりです。

その他、小学校での「難聴理解授業」やろう学校での「保護者学習会」など機会をいただきました。

訪問地域



「ききやすい環境」事例～『声のものさし』～



県内の各保育園、幼稚園、小学校の教室掲示で多く見られるのが「声のものさし」という表です。先生がこの表を指さしながら「今のはウサギさんの声だったね。次はシカの声でお話ししてね」とボリュームアップを促したり、「お隣の友だちとアリさんの声で相談しようね」とうるさくならない配慮を教えたりしていました。

いろいろな子どもに配慮した支援ですが、こうした環境が聞こえにくい子どもたちの「わかりやすさ」につながっていました。



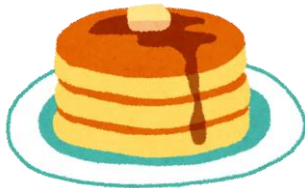
後期 第2回 ファミリーセミナーのご案内

赤ちゃんのきこえを考える学習会

- 1 日時 平成28年 11月12日(土) 15:00~16:30
- 2 場所 長野県難聴児支援センター (松本市旭町庁舎2階『多目的室』)
- 3 講師 **宮川 麻衣子先生** (信州大学附属病院耳鼻咽喉科 医学博士)
- 4 内容
 - ・「オーディオグラム」や「聴力検査」について
 - ・こどもの「きこえの発達」について
 - ・その他 悩み相談 等
- 5 参加費 **無料**



みみよい情報



◇最近の「ことば事情」その1

保育園での誕生会の場面です。お誕生月の友だちへの質問コーナー。「好きな食べ物は何ですか？」の質問に、男の子が「パンケーキ！」と答えました。おお！そっか！「ホットケーキ」とは違うんですね。時代や背景によっても変化するのが「ことば」と痛感します。

同じく保育園で、テレビ番組の話題で盛り上がったので「それって何チャンネルでやっているの？」と尋ねると、その子に「チャンネルって？」とキョトンとされました。きこえていても「聞き返す」という事はたくさんありますね。わからない(聞き取れない)のが悪いのではなく、「それって何？」から始まるお互いのやりとりを楽しめたらいいなあ！と思いました。

(先生が子どものはきは、リモコンの数字を押すんじゃなくてね…)「兄弟でよく争ってね…」

長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2階

支援療育員；丸山秀樹

※ご相談、お問い合わせ等
お気軽にご連絡ください

